

京都府

京都府 農林水産部 流通・ブランド戦略課
地域事務局：一般社団法人 京都府食品産業協会

CASE STUDY

事例



有機農産物の冷凍商品化により 新たな価値を付加した サプライチェーンを構築

LFP
パートナー数
468
社・団体
2023.12現在

プロジェクト創出に至るまで

- ▶ 農業者、食品加工業、料亭や飲食店、大手百貨店、小売業者、運送会社、情報通信会社、機器メーカー、観光・宿泊業、金融機関、大学、研究機関、福祉団体など多様な業種の方が参画してプラットフォームを形成。生産・加工・流通・販売などの各事業者の特徴や技術の連携により付加価値の高い新商品・新サービスが自発的に創出される仕組みをつくり、オープンイノベーションの場を提供しています。
- ▶ プラットフォームには5つの部会を設置し、それぞれのテーマで研修会等を定期的に開催し、情報交換やマッチングの機会を提供しており、今では口コミで次々と事業者を呼び込む好循環を生み出しています。
- ▶ 各部会にはプロデューサーが伴走し、研修会の企画のほか事業者の困りごとを解決に導く役割を担っています。今年度は33個のプロジェクトが進んでいますが、そのうちの一つに、希少な有機いちごやサツマイモの有効活用のため、長期保存が可能な冷凍食品の開発プロジェクトが進んでいます。このプロジェクトでは、有機認証付きの加工品の小売・流通を拡大するとともに、有機栽培ほ場の拡大を目指しています。

左：かみむら農園の上村慎二さん。「ひとを感動させるものを作りたい」と35歳で就農。自身がいくつかのアレルギーを持つことから、本当にオーガニック食材が必要な方々に届くよう、美味しく心にも体にもやさしい野菜・果物づくりを探求し続けており、上村さんが栽培した超レアな有機いちごを活用。

右(サツマイモ)：京都府綾部市で自然に寄り添った栽培法で育てられた“紅はるか”を3ヶ月以上蔵で熟成させ、しっかりと甘みを引き出して焼き芋に仕上げました。サツマイモ本来のおいしさを皮ごと楽しめまます。



STORY

プロジェクトの進行過程

新たな取組への
第一歩をともに!



京都府 農林水産部
流通・ブランド戦略課 主事 戸野谷 衣純さん

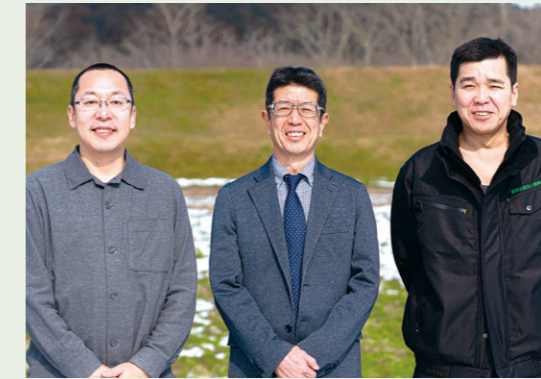


1 研修会・戦略会議

学びの場として5つの部会に分け、研修会の開催やプラットフォームにおける新たなプロジェクトの創出を促す機会となるよう、会場には商品展示ブースを設置。連携を促すための交流会を複数回実施しました。

2 プロジェクトの誕生

高品質な有機いちごの収穫期である4月には販路が少なく、また小さいサイズのサツマイモは活用されず廃棄されることも多い。そのため有機サツマイモ農家でもある(株)健康ファームの冷凍設備を有効活用して、長期保存が可能な冷凍商品化を目指しました。



3 販売・流通

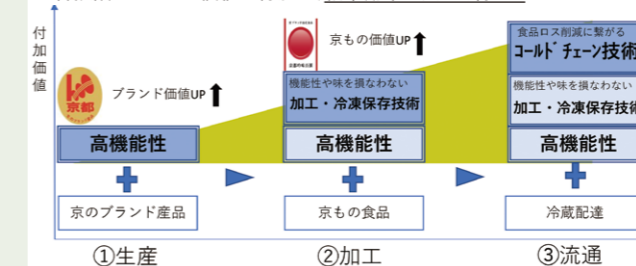
京都市内の複合商業施設GOOD NATURE STATIONを運営し、以前からLFP事業のテストマーケティング等をサポートしている(株)ピオスタイルが中心となり府内の小売店とともに販売を行う予定です。

4 今後の展望

有機農産物の冷凍商品開発以外にも、介護食、宇宙食、府を横断する物流網の整備、京都産米粉活用、野菜の端材を使用した清水焼の開発など33のプロジェクトが生まれました。今後は、多くのプロジェクトがビジネスに繋がるように取り組みます。

<京ものブランドサプライチェーンの構築>

各段階でブランド価値を付加し、相乗効果で大きく育てる



VOICE

プロジェクトメンバーの声



京都府LFP チーフプロデューサー
小畑 陽一さん

仲間だけじゃない
「伴走者」が
いるのがLFP

食品等の開発・販売事業者さんの号令でスタートした京都LFP。農産物の生産、加工・冷凍技術、ブランディングや販路確保などそれぞれの強みを持った方が集まり、いちごや焼き芋の冷凍商品などを開発しています。

例えばいちご農家が他の生産者と一緒に仕事をする機会はまずないですし、異業種とは尚更。けれどLFPをきっかけに互いの課題を知り、学び合うことで、スキルアップに繋がったように思います。

私は、生産量や費用面など取り組みを進める中で起こる悩みの相談先や事業者間の調整役として活動。理想と現実の壁にぶつかったときサポートするよう心がけています。LFPの主役はあくまでも事業者の皆さんですから、問題解決のお手伝いができた時には、やりがいを感じますね。第三者的な立場の伴走者がいるのも、京都府LFPの強みだと思っています。